



道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.4 冬号



巻頭随想

光を求めて道を行く。大林宣彦

特集 社会実験

歩行者天国、オープンカフェ…
いつもより快適な街をみんなで体験

道守会議の輪

1年目から躍動 道守九州会議
多種多彩な活動&催し

みちつくしinくまもと (道守九州会議交流会2004)

九州各県の道守が熊本に集合
“道”が舞台の地域づくりを

【街道を行く】

黒崎・木屋瀬のまちづくり

道守九州会議 設立趣旨

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起こし、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在。子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろうか。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音…心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組む人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりました。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、一步踏み出そう。

人は海を前にと大きく両手を広げ、山に向かうと手を合せる。海は未来を開き、山は古来の約束を守る。

近代日本ではほくら日本人は皆海に向かってこの國を拓いて来たが、どこかで日本人としての暮しの上の約束事を忘れて来たかも知れぬ。

そういう思いの中で、ほくは今、山に渴望している。

九州の道を車で走ると、山懐にしっかりと包まれ、大切な約束に守られているようで吻つとする。ああ今日本人として、日本という國の中にいるのだ、と素直に思われる。

九州の山は美しい。子どもの頃親しんだ、絵本の中の風景のようだ。あの頃は、身近なものと毎日、色んな約束をしながら暮らしていたっけなあ。

ほくらがすっかり忘れていた事が、ほくの体内に温かく、蘇って来るようだ。

ほくは無性に嬉しくて、何だか燥ぎたくなる。すっかり子どもも返りする。

山懐に守られた町では、日目の暮しの中で歩く道が、また素晴らしい。

外灯の無い暗い道からは、星や月が美しく望まれる。「子どもの頃からちっとも変っていない道だから、目を瞑ってでも歩けます」と老婆は語る。凸凹道にはお玉じゃくしが住んでいて、「いつか蛙になるんだよ」と子どもたちは嬉しそう。「柵が無いから子どもは年中川に落ちるけど、だから古里の水の流れや微温む様子や土手の草の性質も学ばし、大人はいつも子供を見守って我を忘れません」とは行政に携る人の誇らしげな言葉。

これは日本人の、暮しの上での約束事だった。賢い人びとが暮らす古里の風景は美しい。そうだ、観光の光とは、智慧の意だ。美しい光を訪ねて、九州の道をきょうも行こう。

光を求めて道をゆく。

巻頭随想

大林宣彦

プロフィール

映画作家。広島県尾道市生まれ。尾道三部作『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』他『ふたり』『あした』など古里活かしの映画作りで国内外の受賞多数。九州では柳川市を舞台とした『廃市』、北九州一帯でロケした『水の旅人』、大分県臼杵市を舞台にした『なごり雪』など。最新作は宮部みゆき原作『理由』。著作も多く日本文芸大賞特別賞。2004年春の紫綬褒章受章など活躍。



『なごり雪』の撮影風景



表紙画:久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

裏表紙短歌:加藤 文子
大正8年(1919年)大分県生まれ。「道守九州会議」発足記念短歌入選歌に選出。

CONTENTS

- 1 巻頭随想……………「光を求めて道をゆく」大林宣彦
- 2 特集 社会実験 歩行者天国、オープンカフェ…
いつもより快適な街をみんなで体験
- 4 道守会議の輪
1年目から躍動 道守九州会議 多種多彩な活動&催し
- 6 みちづくしinくまもと(道守九州会議交流会2004)
九州各県の「道守」が熊本に集合
“道”が舞台の地域づくりを探る
- 12 私の好きな道……「場面変化 舞台のよう」桑野和泉
- 13 「私たちの道守活動」紹介
- 16 浪漫を訪ねて
……「名護屋城」跡は石組み博物館 技術と美意識と
- 17 街道を行く……………「黒崎・木屋瀬のまちづくり」
- 18 海外道事情……「数字以上に遅れている
日本の高速道路整備水準」イギリス
- 19 ご存知ですか
……………九州の道路に関するアンケート調査より
- 20 道守たちのトピックス/人物伝
- 21 道の声・人の声/お知らせ

歩行者天国、オープンカフェ…
いつもより快適になった街を
みんなで体験



道の社会実験—響きはちょっと硬いが、中身は身近で面白い。道の新しい使い方や作り方の試みだから。1999年度からはじまった国土交通省の事業です。

九州では今年、福岡市・天神、鹿児島市・天文館が実験場に選ばれました。いずれも地元が中心となって道を活用する試みで、9月から年末にかけて実施されました。道を歩行者天国にしたり、道にオープンカフェ、川には水上通勤バス…実際にやってみて周辺の交通量や店の売上はどう変わるか、市民の満足度は？などを調査。将来の本格導入を視野にいれ、街の活性化策を探りました。

ピクニック感覚で街歩き。3実験で天神をリニューアル！
社会実験「天神ピクニック」（福岡市天神）

慢性的な交通混雑、放置自転車全国ワーストなど数々の交通問題を抱える福岡市・天神。「憩いと魅力」の新しい天神づくりを、と、社会実験の名前は「天神ピクニック」。実験内容を企画したのは地元商店街や百貨店、行政、道守九州会議が参加した実行委員会。11月13・14日の2日間は3つの実験（アメニティプロジェクト、フリッジパーキング、グッドライドグッドパークプロジェクト）が重なった晴れの日、社会実験が目指す新しい天神のカタチが見えた。

歩いて、座って。
歩行者天国は8割以上が満足

いつもの天神の雑踏が一変した。新天町商店街南側のサザン通りなど5つの通りを歩行者天国とした「アメニティプロジェクト」（11月13・14日実施）。近隣の喫茶店などが路上にテーブルとイスを並べ、オープンカフェを出店。駐輪場や駐車場は、アート作品を展示する空間に。ストリートパフォーマンスが繰り広げられ、子どもたちがおもちゃで自由に遊べるスペースも設けられた。女性グループや親子連れ、お年寄りなどが実験で生まれた「憩いの場」を満喫していた。思わぬ様変わり戸惑っていたお年寄りも、実験と分かる



歩行者天国となったサザン通り

とイスに腰を下ろして笑顔を見せた。「天神は広い。移動中に無料で座る場所があると便利」。

今回の社会実験の中間報告によると、歩行者天国となったサザン通りの交通量は、約8400人（11月6日）から約12800人（11月13日・歩行者天国実施日）となり、約1.5倍増。あいにく今回は歩行者天国の実現がならなかったため、焼き菓子や地下通路なども通り全体で116%の歩行量の増加が見られた。またオープンカフェの利用者数は13日（土）が約1700人、14日（日）は約12000人。8割以上が「満足」、約9割が「また利用したい」と答えた。



社会実験のバネルとオープンカフェ

急がば回れ。天神の新しい
利用法はおおむね好評

天神にやって来る自動車の数を減らし、交通混雑を緩和する「フリッジパーキング」（11月1〜21日実施）。天神地区の外縁部（フリッジ）にある駐車場に止めれば、短時間利用と都心部までのバス利用を無料にする試みだ。さらに百貨店では、5000円以上の買い物で5〜24時間無料になる特典なども付けた。利用者からは「空き駐車場を探してグルグル回るよりは疲れない」「ゆつくり買い物ができる」などの肯定的な声が多かった。



シャトルバスを利用する人々



フリッジパーキングが受け

3時間無料で自転車利用増、
マナー向上に期待

自転車の利用方法などを考える「グッドライドグッドパークプロジェクト」では、違法駐輪解消として地区内の駐輪場利用を2〜3時間無料にする「短時間無料開放」、歩行者天国内で自転車を押して歩いてもらう「おしチャリロード！」を実施。自転車利用のマナーアップを呼びかけた。中間報告では、ソラリアターミナル駐輪場の利用者は3時間無料実験で前月より約1.2倍増加。さらにめき駐輪場も同1.6倍増加した。



短時間無料開放で利用者増加

路線開設なるか。
那珂川を「道」活用

新たな交通渋滞対策として、那珂川を南北の幹線道路に見立てた水上バスの試験運行（10月30日〜11月7日実施）も行われ

た。福岡都市圏交通対策協議会が地元の街づくり団体「水上交通研究会・福岡」（樋口明代表）と協力し、社会実験の一環として取り組んだものの。約30人乗りの小型旅客船で、発着点の水上公園（福岡市中央区）からチャンネルテ



那珂川を走る水上バス

イ博多付近を周遊するコースで実験。もの珍しさもあって、連日利用者でにぎわった。将来的な定期航路開設を目指し、運行可能な時間帯や市民アンケートを実施。実用化を検討した。

アーケードⅡ「道」の特徴を活かし、にぎわいを演出
アメニティ空間づくり社会実験（鹿児島市天文館）

鹿児島市の天文館地区では9月4日から11月7日までの約2カ月間、「アメニティ空間づくり社会実験」を実施した。快適でにぎわいのある通りにしようとして照国表参道、びらもーる、にぎわい通りの3つの商店街の店主が中心となって準備。実験中の人出などを調査し、好評であれば継続。魅力ある街づくりへとつなげる。



実験終了後もにぎわう「びらもーる」

びらもーるの目玉は、長さ200mにわたるアーケードの中央部にイスとテーブルを設置した土日祝限定のオープンカフェ。目の前でコーヒーを立てる、無線でインターネットが利用できるなどの趣向を凝らした複数のカフェが登場した。また、焼き菓子やパンや花、果物などを販売する屋台も並び、通りは様変わり。「にぎやかで雰囲気もいい」と買い物客らを楽しませた。照国表参道ではアートギャラリーとして島津育彬公を中心に薩摩の歴史をパネル展示。にぎわい通りでは、アーケードに花かごを飾り付けるなど、道を花で埋め尽くした。天文館の社会実験は、JR鹿児島中央駅ビルの複合商業施設の開業時期と重なった。駅ビルとの一体感も必要だが対抗策も必要。アーケードという天文館の特徴を活かし、にぎわいを演出して新たな客層の掘り起こしをめざす。

「道」を活かした街づくりの可能性を探る

今回の社会実験のデータやアンケート結果は、今後の街づくりの貴重な資料として活用される予定。歩行者天国やオープンカフェなど、いつもより快適な街を市民も体験することは、魅力的な街をみんなで考える良いきっかけになりそうだ。



多種多彩な活動&催し

道守九州会議が発足して半年。第2回運営会議と機関誌「道守通信」編集会議の合同会議が11月16日、福岡市で開かれました。

榑木武代表世話人（九州大学名誉教授）はじめ各世話人、「道守通信」編集委員、参与や行政関係者が参加し、半年間の活動を総括し、初年度後半の活動方針などを決めました。これまでも、これからも活動や催しなどが「目白押し」状態で、活発な意見が交わされました。

半年の歩み報告

「道守九州会議」半年間の活動の特徴は、第一に道守の輪と交流が各地に広がったことです。各県に道守組織が生まれ、多様な発足記念イベントや企画がありました。第二に交流の規模とテーマが九州全体に広がったこと。シニックバイウェイ・シンポジウムと交流会「みちづくしinくまもと」が象徴です。第三は、道守パネル展や道守体験事業など活動内容の多彩さです。これらの準備や本番を地域の道守たちと行政との連携や協力・協働の機運が一気に盛り出したことも大きな特徴です。

「みちづくし」交流会でも「シニックバイウェイ」に関心

「観光振興と道路」九州におけるシニックバイウェイの可能性を探る」シンポジウムが9月17日、福岡市で開かれました（道守通信号外で詳報）。榑木武・道守九州会議代表世話人が討論のコーディネーターを務め、多くの道守が壇上、会場で新しい観光論に意見を交わしました。



「観光と道路」シンポジウム風景

シニックバイウェイは米国で生まれ、北海道が試行中の観光振興策。日ごろ大事にしている身近な道が観光資源、客を呼ぶという施策に道守たちの関心が高まりました。そのことを証明したのが10月15・16日に熊本市で開かれた道守九州

個々の道守活動、個性を活かした道づくりが観光施策と連携すれば魅力ある観光地に。道守一人一人の汗の成果を地域だけではなく外来者にも楽しんでもらえる、と。地域から、あるいは道守活動としてどう参加するか、どう情報発信するか。道守会議としても大きなテーマとなったといえます。

多彩な活動、各地に道守会議誕生

道を舞台に清掃や植栽・植樹、安全、歴史・文化など道守が日々取り組む活動は多彩です。道守九州会議の発足は人知れず地道な活動を含め多彩な活動に光を当てました。「私たち」と連携を促しました。その証が各地の道守会議の発足です。また発足を記念する企画などが多彩だったことも目を引きます。

- ▽3月11日 道守くまもと会議（熊本の道を語る女性の会／電話096・387・6671）
- ▽3月26日 道守大分会議（国立大分高専都市システム工学科 企画・デザイン研究室／電話097・552・7627）
- ▽6月28日 道守みやざき会議（宮崎交通直営部／電話098・65・1111）
- ▽7月5日 道守佐賀会議（ロードネット佐賀／電話0952・24・2746）
- ▽7月7日 道守かこしま会議（武町内会／電話099・256・9755）
- ▽8月28日 道守長崎会議（ロード34ワークショップ実行委員会／電話095・822・6833）
- ※福岡県の組織はまだないが、柳川市北九州市で準備会合や意見交換会が開かれた。

道守パネル展の開催（道の駅と期間）

- ▽福岡「おおむた」7月3～21日、「うきは」7月24～8月11日、「しんよ」とみ「8月14～9月1日」
- ▽佐賀「鹿島」6月26～7月14日、「厳木」7月17～8月31日
- ▽長崎「みずなし本陣」かえ7月17～8月31日、「さいかい」7月17～29日、「彼岸の荘」7月17～8月4日
- ▽熊本「天津」7月1～8月31日、「鹿北」7月1～8月31日、「電北」7月1～8月31日
- ▽大分「やよい」7月1～20日、「ゆふいん」7月23～8月10日、「やまくに」8月13～31日
- ▽宮崎「北川はゆま」7月1～19日、「高千穂」7月21～8月8日、「山之口」8月11～31日
- ▽鹿児島「喜入」8月4～16日、「阿久根」7月17～8月1日、「くくの松原おさき」8月19～31日

道守九州会議

1年目から躍動

これからの活動

道守九州会議初年度の後半の活動方針として①各地で行政との連携強化 ②地域組織の強化と会員増 ③道守ホームページの利用促進 ④賛助会員増 ⑤特定テーマ（シニックバイウェイ研究会創設、フォトスポット&パーキング・走りやすさマップ推進）の取り組みなどを決めました。

シニックバイウェイ研究会（仮称）設立へ

新年に発足予定

「観光振興と道路」シンポジウムや「道守交流会2004」で関心が高まったシニックバイウェイ（道を使った観光振興）の勉強や研究のため道守九州会議と国土交通省九州地方整備局が合同研究会を発足させます。スタートは新年に発足させます。スタートは新年に発足させます。

シンポジウムのような活発さ

第2回運営会議

道守九州会議の第2回運営会議は議事の多さに加え活発な意見が出て「まるでシンポジウムのよう」という声がかかれたほどでした。



運営会議の様子

道守はまず行動から 行政マンも

各地で展開された道守体験事業や意識調査結果（道守会議を知っている人は3.8%など）をきっかけに意見が続出。北九州国道事務所職員が周辺の清掃に取り組み出した報告もあり「行政マンも含めまず実行、その姿をみていただく」など反省・期待も交えて意見が交わされました。

地域の活動が基本 サポートを

民間と行政の協働のあり方が基調となり、改め

フォトスポット&パーキング 新企画に情報提供を

道守HPにPS&Pページも登場

道筋の美しい景色などのフォトスポットと安全円滑に駐車できる近隣の駐車場情報を旅行者等にインターネットや携帯電話などで提供することに



道守HP内のPS&Pコーナー

より計画的な旅行やドライブ支援をはじめ、迷惑駐車や迷走運転などの抑止、また魅力情報発信による観光客増加などへの効用等を勘案した国土交通省九州地方整備局での取組みと連携し、フォトスポット&パーキング情報の募集ならびに道守HPでの情報活動を共同で行っていくこととしました。当面は幾つかの道の駅駐車場を拠点としたスポットを例示して情報を募集中。平成17年3～4月には一斉に情報提供を始める予定です。詳しくは道守HP内のPS&Pコーナーをご参照ください。

(http://www.michimori.com/psp/index.html)

「地域に密着した道守会議」の声が目立ちました。道守活動の場は日ごろ自分達が使う道。活動の基本は地域密着です。行政（国や県市町村）がそれを支えるパートナーシップを。

一方、この半年間の実績を背景に「地域道守会議ができたので行政と話しやすくなった」「協力を得やすくなった」「活動に光が当たった」などの声が出され、道守のネットワークや地域会議の大事さが浮き彫りになりました。

- ▽同・草牟田通り「草牟田愛護会 児童の植栽とゴミ拾い」10月30日
- ▽同・橋通「みんなで花のまちづくり」10月24日
- ▽鹿児島「道の駅「喜入」住民との協働目指して」10月14日
- ▽大分・別大国道「植樹と里親・マイツリー計画」9月25日
- ▽宮崎・国道202号沿線「コバノセンナの苗植え付け」9月25日
- ▽同・日南市大堂津地区「植樹、国道清掃」8月8日
- ▽同・橋通「みんなで花のまちづくり」10月24日
- ▽鹿児島「道の駅「喜入」住民との協働目指して」10月14日
- ▽同・草牟田通り「草牟田愛護会 児童の植栽とゴミ拾い」10月30日

九州各県の「道守」が熊本に集合 ”道”が舞台の地域づくりを探る



道守九州会議初の交流会「みちづれ in くまもと」が10月15、16日に熊本市で開かれた。九州各地で「道」に関わるボランティア活動に取り組む団体・個人の会員約350人が参加。道路の景観や公共交通のあり方、地域づくりについて意見を交わした。

15日は「清掃美化」「歴史」「景観」「祭り」「交通」「観光」の6つのテーマで分科会を開催。活動団体のリーダーらが座長となって現状や課題などについて話し合い、これからの地域づくりにおける「道守」の役割を確認した。

16日は熊本城を会場に、歴史街道を散策する「熊本城ぐるりめぐり」、人をおごに乗せて競争する「爆笑かごかきレース」を行い、交流を深めた。

古田勝人氏

(熊本県知事代理、熊本県出納長)

道路を身近にし、道と人との関係をいかに強めていくかが大事。熊本県では、道を守る方々を「ロード・クリン・ボランティア」として現在104団体、約3800人の活動を支援している。交流会を通じて、積極的なご提案をいただきたい。

幸山政史氏

(熊本市長)

これからの街づくりは、地方にできることは地方という考え方に基つき、進めなければならぬ。知恵と力を出し合う住民共同による街づくりが重要になる。熊本で様々な分科会が開かれることは意義深いことだと思う。

坂本正氏

(熊本学園大学長、くまもと道のフォーラム代表)

道守という大きな輪ができ、その中に加わることができたことを幸せに思う。歴史、文化を運んでくるものが「道」。文化と歴史を大事にすることで、住民参加の街づくり、道づくりが広がっていくのではないかと。

岡山和生氏

(九州地方整備局長)

過去100年、道を作る人、使う人という役割分担で二極化が進んだ。米づくり文化が育んだ日本の原点に帰って、道づくりを一緒に進めることが道守会議の精神。景観だけではなく、心の美しさが見える地域づくりを進めていきたい。

「開会セレモニーから」

樽木武氏

(九州大学名誉教授、道守九州会議代表世話人)

生活を快適にし、人生を豊かにする根源は、積極的な交流にある。「道」から始まる交流をいかに推進するのか。道の文化をいかに育んでいくのか。地域をどのように活性化するか。市民一人ひとりが役割を担うことが重要。

九州の道守たちが交流

「交流会」

全体報告会終了後、屋外に場所を変え、道守交流会が開かれた。道守九州会議総会として、道守の世話人らが壇上に集合。それぞれの道への想い、今後の活動の抱負などを述べた。各県の参加者は、情報を交換し合うなどして、道守同士の交流を深めた。



九州各県の道守世話人が一同に集合

熊本の道守の女性によるハープの演奏

交流会には各県の道守関係者が多数集まった

九州7県の道守が日々の活動や道への想いを発表



各チーム、思い思いの衣装で全力疾走

優勝以下各賞に賞品が送られた

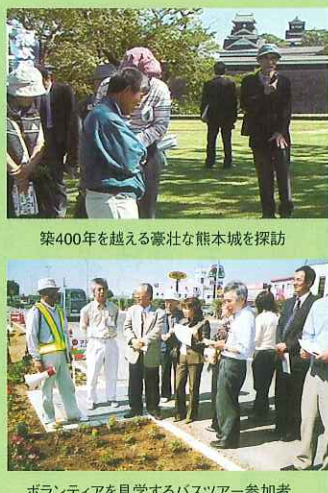
道守佐賀チームが優勝！

「全九州対抗 爆笑かごかきレース」
熊本城の長堀前で江戸時代のかごかきを再現。かごに人を入れて競争するかごかきレースが行われた。女性や子供も大健闘。途中でかごが壊れるアクシデントもあったが、参加者が知恵を出し合い修復。無事にレースが再開され、道守佐賀チームが優勝した。

”道”の文化を再発見

「熊本城ぐるりめぐり」

翌16日は秋晴れ。みゆき坂く熊本城く本丸・天守閣く長堀と、熊本城周辺の歴史の道を2時間かけて散策した。また同時に、薩摩街道と豊後街道を巡るバスツアーも開かれ、それぞれの地域で歴史の道やボランティア・サポート・プログラムの見学を行った。



築400年を超える豪壮な熊本城を探訪

ボランティアを見学するバスツアー参加者

歴史・自然・人とのふれあい 参勤交代道の旅27年

記念講演「歴史街道に学ぶ」



阿南誠志氏

(自然を愛する会代表)

単なる休憩所ではなく、農産物や独自の料理など、地域情報の発信場所としても機能している「道の駅」は、行政の仕事の中では、抜きん出て、評価できるものの一つです。道はただ通過するものではありません。立ち寄る場所が必要です。

私は、27年間、大分から熊本まで、参勤交代道を多くの小学生、中学生と一緒に歩かせていただいております。二百人もが参加して、一週間かけて歩くというこの行事が、長く続いている最大の理由は、国や地方自治体から一切の補助を受けなかったからです。補助金で運営されていたら、予算が下りなくなつた時点で終了していたでしょう。

今、定員200名ですが、毎年参加する子どもたちが多くて、一般募集ができなくなりました。そこで、薩摩街道を歩く、豊前街道を歩くというプログラムも始めたのです。九州にはいい道が沢山残っています。皆さん、是非これを活かしてください。応援は惜しみません。

私たちは、大学生のボランティアも含めて270人がおそろいの参道笠を被って歩きます。それだけで、300年の歴史に触れている感じがするのです。東京から熊本まで、40人の子どもたち

と自転車で行ったこともあります。道歩くことは、色々な方々との出会いの連続です。このような出会いが少なくならないかと思っております。一つは歴史を学ぶこと。二番目は小学生、中学生と一緒にグループをつくり、大学生の指導を受けながら自分たちで行動することです。三つ目は、大学生が、直接子どもとの世話をすることです。結果的に、子どもたちは、大学生に憧れるようになります。途中で、毎年とうもろこしを馳走してくれる農家があります。270人分を毎年用意してくれています。その行為の意味をしっかりと子どもたちに伝えることが私たちの仕事です。豊前街道では、地元の方が絵本を使って、街道が庶民の道としても機能していたことを教えてくれました。こういう機会を子ども達に与えられ環境を皆さんも活用してください。

「講師プロフィール」

熊本市の登山専門店「シェルパ」経営。「自然を愛する会」主催の登山は、海外を含め年に約400回。大分から熊本まで参勤交代の道歩き企画を続けている。熊本県鹿本郡菊鹿町在住。

第①分科会 清掃美化・育草木 「美しく快適なみちづくり地域づくり」 花づくり、みちづくり、継続は力

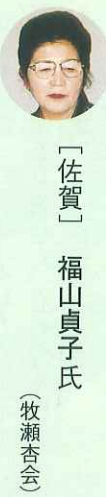
きれいにすることはカッコ良い



「福岡」 木下真裕氏
(NPOグリーンバード福岡支部)

若者の街、福岡の天神・大名で月に10日「ゴミ拾い」をしている。「きれいな街は心をきれいにする」「きれいにすることはカッコ良い」のメッセージを若者に送る活動だ。活動1年でメンバー265人にもなった。この夏、九州初の打水大作戦は300人で清掃し、打水をした。日本文化を再現し若者の心に訴える企画も行った。協賛金を募っているが、資金問題は課題。

できる時にできる人ができる事を



「佐賀」 福山貞子氏
(牧瀬杏会)

国道整備後に空地がゴミの山となったので昭和59年、地元企業から資金を募り花壇を作った。苗肥料代もなく寄付などで賄い、最初10年は特に大変だったが、団結はできた。昨年、国交省と協定を結び、資金の悩みが軽減し活動に邁進できるようになった。「できる時に、できる人が、できる事を」の精神で老人から子供まで参加者が増え「コミュニティ形成にも貢献している」。

美しい住みよい元気な町につながる



「長崎」 田口昭子氏
(環境美化を考える会/西彼杵郡大島町)

道路の清掃や草花の手入れ、空き缶拾いなどを18年前から続け、現在は月に5、6回の活動である。美しい道や橋は観光のシンボル。会員は50人、町民にも同じ思いが広がり、参加者が増え、お茶接待など心のつながりも強まっている。昨年、県の「道の里親」制度に登録し、保険もかけていただけになった。カザニアの町づくりを進め、初夏には約5kmに及ぶ県道沿いに黄色い花が咲き、まちを明るい雰囲気になっている。

清掃美化を通じ、心の美化へ



「熊本」 永田ミユキ氏
(大津町商工会女性部)

13年前、商工会婦人部の発案で町有地に花壇を作り、花づくりや道の清掃まで活動が広がった。5年前、花壇の横にゴミが投棄されるようになり、婦人部が立てた看板は壊される始末。町と警察の看板を変えたらゴミ捨てが止まった。現在はジャスコなどの企業も参加。年1回は駅南一体を地域で一斉活動するまでに。さらに国道にもと準備中。清掃美化を通じ心の美化へと深まった。

第②分科会 歴史・文化遺産 「歴史、文化からのみちおこし地域おこし」 再発見と再利用、歴史や文化は宝

本物の種を、低い敷居に並べる



「佐賀」 内田純夫氏
(佐賀県建築住宅課長)

佐賀の菓子文化は長崎街道を通った砂糖から生まれた。身近な文化の道を「シユガロード」と命名し地域おこし活動を始めた。歴史や文化を活かすポイントは、「種」「今ある地域のもの種にする。」「本物」「小さくても本物を。記念碑だけでは面白くない。」「低い敷居」「プロやマニアでなく身近な目線で。」「並べつなぐ」「つないでゆるやかなテーマを。」「役所を活用」「情報・人脈源などとして」。

歩いて宝発見、地域の元気に。

残せば活用を



「長崎」 川良真理氏
(さるく博覧会市民プロデューサー)

「さるく博」を開く準備をしている。街をぶらぶら歩き、歴史や文化などの宝を発見し、地域の元気に生かす。市民が考え行動して継続的な活動につながる博覧会をめざしている。行政とは価値観や尺度は違うが、得意分野を分担すればよい。以前、旧上海銀行の保存運動が実ったが、活かす取り組みも大事。重要文化財で利用制約がある中、工夫しつつ最近ではライブもできる。外来者からほめられると嬉しくなり、やる気につながるものだ。



「熊本」 西島眞理子氏
(熊本県建築士会調査研究委員会 副会長)

伝統建造物などの保存・復元に技術者として取り組み街並みや街づくりに参加している。熊本県下の歴史の道や沿道建造物を見て歩いた、歴史や文化を掘りおこし、各地で活性化にむけた道の整備が行なわれている。技術面からの関わりを活動の柱としているが、仰々しいデザインも見られる。道整備では路面や電柱、街灯、案内板・サインなど、当時になかったものなどはシンプルに。素材は吟味。成熟したデザインが大事。

地域の歴史文化や資産を
知り惚れ誇りを持つことから始まる、



「大分」 石丸邦夫氏
(日田市観光協会)

天領・日田で古い街並が残る豆田地区。何とか活性化しようと約25年前、15人会を作り、勉強からはじめた。地元の人歴史を知らず、愛着や誇りを失っている。祭りで地域や歴史を知ろうと呼びかけ、昭和54年に天領祭りを始めた。最初「保存」は理解されず「活用」を呼びかけた。徐々に意識が広がり個性的な店や街並みもでき、50万人が訪れるまでに。生産性のない文化財は潰され、活きるものが残る。まず好きになろう。

花から木へ百年の大計を並木に...



「大分」 真砂矩男氏
(ぎつき並木街道1000人衆)

歌手の南こうせつ氏が杵築に移住。「殺風景な町を花で飾ろう」と呼びかけ、国道にコスモスや菜の花を育てて18年。いまは5000人規模の活動。街路樹の育成も始めた。毎年1万円を寄付する協賛会員100人を募り、行政の植樹計画にも参加。最近では排水や歩道まで活動範囲を広げている。

このままでは道も町も死ぬ



「宮崎」 矢野初美氏
(北川町道づくりを考える女性の会)

5年前に国道326号が完成。便利になったが沿道は野の花がゴミの花に。「このままでは道も町も死ぬ」と危機意識から「ゴミ拾い」を始めた。平成11年、小学生の親を中心に「あかつぱちファイトくらぶ」を結成。児童と親と一緒に始め、種や苗を提供する方も出現。資金は厳しいが、できることをやっている。人々のつながりができ元気な地域になりつつある。

「継続は大きな力に、



「座長総括」 亀野辰三氏
(国立大分工業高等専門学校教授)

人々の心のつながりや成長に注目」清掃美化など、地道な活動は苦しいことも多いが大きな力になる。継続を通し心の成長や地域の自信につながる。活動の継続・発展には行政の連携は大きな要素で重要。

第③分科会 景観・アート 「美と感動のみちづくり地域づくり」 美しいみちや地域は、ビジョンから

空き店舗をアートの晴れ舞台に



「佐賀」 八頭司美紀氏
(NPO活気会)

破たんした第3セクタービルを拠点に佐賀市中心街の地域づくりをしている。まず治安を、と建物に明かりを灯すことから始めた。周辺の空き店舗が寂しく高校生の書を飾った。また、ギャラリーを設け1〜2週間置きに15の展覧会を開いた。みんなで手軽に出来るアートとして周辺の道に色を統一した花を植えた。表現の場を求めるとともに晴れの場を提供すると、出展者の知合いが見に来るなど集客効果にもつながり、町の一角が晴れ舞台となった。

歩きたくなる道づくり



「長崎」 石井智子氏
(ルート34ワークショップ)

これからの道づくりに生活者の声を反映させるため、道に親しもうとワークショップを開き「歩きたくなる道づくり」を提案中。石畳や路面電車が溶け込む街並みはプラス面ばかりのようだが、市民にとって不自由なことも多い。長崎くんちで知られる諏訪神社前の地下道は暗くて怖かったが、パネルを入れ替え明るく改善することができた。小さなことに気付くことから始め、地域の人ともに道づくりを考えていきたい。

第④分科会 景観・アート 「美と感動のみちづくり地域づくり」 楽しい遊歩道、親子で語らう場に

世界に誇れる阿蘇が看板などで美観が損なわれ、さびれている。自分たちだけが目立って良いという考えはやめ、景観に配慮すべきだ。また、市街地に歩いて楽しい遊歩道を作れば、親子で楽しい語らう場にもなるのではない。小さくても親しみの持てる物語に人は心を動かされる。例えば、童話の道など独自テーマを持つ道づくりを進めてはどうだろう。道づくりもテーマを持てば新たな可能性が見えてくる。



「熊本」 池永久美子氏
(絵本作家・イラストレーター)

世界に誇れる阿蘇が看板などで美観が損なわれ、さびれている。自分たちだけが目立って良いという考えはやめ、景観に配慮すべきだ。また、市街地に歩いて楽しい遊歩道を作れば、親子で楽しい語らう場にもなるのではない。小さくても親しみの持てる物語に人は心を動かされる。例えば、童話の道など独自テーマを持つ道づくりを進めてはどうだろう。道づくりもテーマを持てば新たな可能性が見えてくる。

歩いて宝発見、地域の元気に。

残せば活用を



「佐賀」 内田純夫氏
(佐賀県建築住宅課長)

佐賀の菓子文化は長崎街道を通った砂糖から生まれた。身近な文化の道を「シユガロード」と命名し地域おこし活動を始めた。歴史や文化を活かすポイントは、「種」「今ある地域のもの種にする。」「本物」「小さくても本物を。記念碑だけでは面白くない。」「低い敷居」「プロやマニアでなく身近な目線で。」「並べつなぐ」「つないでゆるやかなテーマを。」「役所を活用」「情報・人脈源などとして」。

歩いて宝発見、地域の元気に。

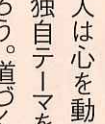
残せば活用を



「大分」 幡東孝則氏
(日本造園修景協会大分県支部)

景観は連続性、単独では存在でき得ない。農村地のバス停を自然に溶け込むポケットパークに、山を見せたい場所には低木を植え、稜線を見せるなどの工夫が必要。建物を街路樹で一部隠し、景観を統一すれば落ち着かせることができる。田園地帯に市街地と同じ街路樹を植えても意味がない。アートは統一感が重要。道づくりも街づくり同様に①リーダーシップ②計画立案③地域の協力④が必要不可欠。

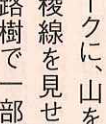
景観は連続性、配慮する街路樹を



「大分」 幡東孝則氏
(日本造園修景協会大分県支部)

景観は連続性、単独では存在でき得ない。農村地のバス停を自然に溶け込むポケットパークに、山を見せたい場所には低木を植え、稜線を見せるなどの工夫が必要。建物を街路樹で一部隠し、景観を統一すれば落ち着かせることができる。田園地帯に市街地と同じ街路樹を植えても意味がない。アートは統一感が重要。道づくりも街づくり同様に①リーダーシップ②計画立案③地域の協力④が必要不可欠。

「地域づくりにはテーマとビジョン、



「座長総括」 三原ユキ江氏
(ロードネット佐賀)

美しい地域は見えるものだけでなく心に感じ響くものが大事で物語やテーマ、夢が必要。魅力ある地域づくりはビジョンと人々の参加が不可欠で10年は続けることが重要。

「座長総括」 田島直美氏 (入来町女性団体連絡協議会会長)

「自分のまちにしか無い、自慢できるものを掘り起こす」歴史的な価値などに住民は無頓着であった。再発見で誇りを感じるようになって歴史の遺産が甦る。地域資産を経済的効用とつなげていく事がこれからのまちづくり。

感動される景観づくりをめざして



「宮崎」 長友睦郎氏
(宮崎交通株)

宮崎交通が景観づくりを始めてから70年以上。日南海岸から萩の茶屋、えびの高原まで四季折々の花木を植えている。宮崎はいつも花が咲いて素晴らしいと観光客をはじめ皆様からお褒めを頂いている。宮崎交通の景観づくりは大地に絵を描くように、植え足し切り出しによって美しい自然をより美しくしていくことだと教えられた。名所をつくる三つの教えを守り景観づくりに取り組んでいきたい。①老木がある②植え方③数が多い。

「地域づくりにはテーマとビジョン、



「座長総括」 三原ユキ江氏
(ロードネット佐賀)

美しい地域は見えるものだけでなく心に感じ響くものが大事で物語やテーマ、夢が必要。魅力ある地域づくりはビジョンと人々の参加が不可欠で10年は続けることが重要。

第④分科会 楽しみ賑わいの舞台 「楽しみ賑わいからのみちおこし地域おこし」にぎわいが、おもてなし、つながりへ

昔からの営みを道路で復活実験



「福岡」 稲舂積氏
(NPO博多まちづくり、博多祇園山笠)

山笠の祭りに代表される営みを「もう一度道路に」と、博多部で都市部空洞化対策も兼ね、道を日常とは違う観点から捉えた社会実験をした。車線代わりに花プランター、歩道には植栽の代わりに安パンコ(木のベンチ)を置き、バス停横に休憩所。空き車庫はカフェに、川には灯明。輪タク、絵や写真の装飾、無料レンタサイクル、灯明・山笠マップ…と様々な企画を進めると連携が深まりネットワークが生まれた。実験から本格実施へ、他地域へ。

利便性のみを追求より田舎の風情



「佐賀」 宮田圭子氏
(佐賀県建築士会女性会、唐津くんち)

佐賀県の唐津くんちは昔ながらの町民文化の祭り、曳山が何台か寄り集まったのが原型。現在は歩行者天国を確保し、露店・植木市などの開催で相乗効果を生んでいる。曳山コースは武家屋敷があった城内地域は通らない。町中のカーブや電柱が道幅を狭くしている道が曳山にとって醍醐味という。唐津という田舎には田舎の風情が似合う。利便性のみを追求した道づくりは地域の特殊性、ひいては魅力を失うことになりかねない。

一人一本花道路・マイアジサイ企画



「佐賀」 山口美穂子氏
(NPO活気会、納涼佐賀祭り)

佐賀市のメイン通りを歩行者天国にして開かれた第33回栄の国祭り。回を重ねるごとに協力者が増え会場エリアは約15km、今年の総人出は18万8千人に。よさこい踊りは県内外から39チーム約千人が参加。今後は県内外から佐賀市街地までを花道路「マイアジサイ」にする。一人一本ずつ植えて管理、道に興味を持ってもらう狙いで企画を進め、道路を交通利用だけでなく、誰もが参加できるイベントの場に、出会い・交流の舞台・賑わいの場に。

賑わいの演出でおもてなしの心育つ



「熊本」 井口圭祐氏
(下町惣門会)

地元再認識のきっかけはドラマのロケ地になったこと。撮影から放映まで3カ月。「観光地の名に相応しくならなければ」と、無の状態からまず町の調査。豊前街道を案内する「米米惣門ツアー」を企画、現在も盛況。地元山鹿の灯籠祭りの通年実施など視点を変えたイベントも取り組んでいる。私たちのソフト先行に行政のハード、電線地中化・復元建造物などが連動。人を迎えるため道の清掃など活動が続き地域が元気になった。

第⑤分科会 暮らしと交通 「都市や地域の交通課題への挑戦」暮らしやすい道路空間、住民と行政で

住民と行政の協働で暮らしやすいみちを



「佐賀」 塩満利昭氏
(日新・新栄地区くらしのみち協議会)

佐賀市日新・新栄地区は約2km、道は狭く、通過交通量と交通事故が多い。人口8千人の4分の1が園児・高校生で、子供たちが事故に遭う。道路にハンブ等を設置した速度規制や流入制限による通過交通抑制など住民参加型で二期にわたる社会実験を行った。速度抑制と通過交通量減の効果があり、住民の約80%が「安全になった」としたが、子供の回答は45%程度。ハンブ設置間隔が密でない効果が薄れる。今後の市民生活には、住民と行政が一体となって、暮らしやすい、利用しやすい道路空間を協働で追求していく必要がある。

斜面市街地の改善とコンパクトシティ



「長崎」 杉山和一氏
(長崎大学環境科学部助教授)

長崎市は43%の斜面市街地を抱えている。これらの多くの地区では、車が進入できない狭く急勾配の階段が生活道路として使用され、普段の住民生活が不便であるばかりでなく、自然災害や火災等に対して非常に危険な状態である。長崎市は斜面市街地に斜行エレベーターや二人乗りモノレール、乗合タクシーなどを積極的に導入している。

小回りのきく総合的施策が必要



「熊本」 坂本正氏
(熊本学園大学長、くまもとのフォーラム)

しかし、必要最低限の道路や公園等は、住環境の改善や防災的な観点からも必要である。同時に、条例等により積極的に地域全体を管理することにより、環境に優しいコンパクトシティの実現も可能である。



「座長総括」 大貝知子氏
(NPOタウン・モバイルネットワーク副理事長)

「道は全てを運ぶもの。都市管理の概念で、市民活動も含めた総合施策を」交通課題への対処は行政だけでも市民だけでなく、またハードのみでも出来ない。都市管理の概念で道を介した総合施策が重要で、行政を後押しする市民活動が必要。

地元を良く知っているのはやはり地元



「鹿児島」 平岡太一郎氏
(天文館にぎわい空間づくり運営委員会)

鹿児島中央駅から北へ1.2kmのところ、天文館地区商店街があり、アーケードで連なる11の通り会のうち3つの通りが社会実験に参加した。オープンカフェや照国神社表参道では歴史を打ち出したストリートギャラリーなど特徴を出した。収益は道路清掃に充てた。今後は実験だけに終わらず継続したい。地元が最も良く地元を知っている。道

第⑥分科会 きらめき創造と観光振興

地域素材に、輝く人材で磨きをかける

基盤整備を、資源を磨く・人材の輝き



「佐賀」 川上義幸氏
(佐賀県副知事)

有明海の景観や水産物など自然や景観、歴史、文化など佐賀固有の資源があるが1級品になってないのは交流基盤の弱さ。西九州道整備で呼子の観光客が増え、国道263号と道の駅整備で物産販売が大当たり、交流客も増えた。地域の元気には有明沿岸道など基盤整備が重要。将来ビジョンを市民や行政が共有して総合力を。鹿島のガタリンピックは地元女性が牽引し知名度を上げた。素材を磨くこと、人材が輝くことも大事。有明でNPOを立ち上げ中。

東九州伊勢エビ海道、夢は高速化



「大分」 橋本正恵氏
(蒲江町観光協会会長)

蒲江は宮崎県境の九州東端の町、85kmの素晴らしい海岸と豊富な水産資源があり、隣県北浦町と「東九州伊勢エビ海道」のブルーリゾム活動を展開中。関西まで売り込みに出かけ、魚料理教室を開く。基幹道の国道388号は唯一の生活道路、かつ産業道路。100億円規模の基幹産業・水産品の搬送時間が最大の悩み。女性を含め地域の総合力で高速道路実現に取り組んでいる。無料の直轄高速の方向が見え出した。今後も自分達の問題として取り組む。

魅力地には地域が育てた

心の造形がある



「宮崎」 和田皓氏
(日南海岸活性化協議会)

日南海岸は、昭和40年代は輝く観光舞台だった。昭和初期から海岸道路にフェックスやサボテンなどを植えるはじめ昭和30年に国定公園になり来年で50年、道路を資源にしたためらしい舞台。現在24の企業等で行政とも連携し日南海岸の独自カラーと魅力を高める活動を展開中。魅力ある地には道を育てる地域の心の造形が必ずある。青島の神楽や鶴戸神宮の剣道、観月会など既存イベントを育てる一方、新しくハワイアン企画を実施。全国から愛好家200名が集まる。大学バンドクラブ同窓会をこの時期にという話も。

路は、整備計画段階から実際に使う地域住民の参加を。



「座長総括」 阿野史子氏
(ルート34ワークショップ代表)

「生活者参加が道を地域に生かす力に、道の賑わいは地域の愛着心にも」賑わいによる来訪者増加は地域の人々の自信や張りを生み地域の再認識、もてなしの心や人のつながりを生む。道は歴史文化などの地域個性を活かす賑わい空間としても大事。

「地域資源を磨き活かした観光振興」

魅力がなければ通過点、道の駅が転機



「熊本」 兼瀬哲治氏
(清和村長)

清和村は鉄道も高速道もない九州山地の村。しかし、道の駅が大きな転機となり、観光客ゼロからは13万人が訪れ2億円の外貨獲得までに。薪文楽などの清和文楽を地域ブランドに育てているが、20年かけて広く知られるようになる。当事者が良いと信じなければ、伝え広められない。松橋から延岡までの国道218号沿線を公営観光施設が連携した「日肥道草街道」として案内もしている。魅力がなければ通過点、魅力をどう高めるか。高速道整備で熊本まで45分熊本が就業の場となるベッドタウンも夢ではない。



「座長総括」 中村幸子氏
(熊本の道を語る女性の会代表)

「地域素材に惚れ込んだ行動と市民・行政の総合力、輝く人材が大事」魅力づくりには素材に惚れ想いを伝え行動する輝く人材の存在が大事で、行政と市民での総合力と戦略性、情報発信などの戦術論が大事。道は魅力なければ単なる通過点にも。

全体報告会



「座長」 大石和久氏
(早稲田大学客員教授)

「道は暮らしの舞台」道は、暮らしの舞台としての空間である。昔は、歩く空間だったが、車社会となり、現在では人と自転車、車が共存する空間である。道が持つ公共性、地域づくりについて「道守九州会議」が考える機会になることを期待する。



分科会詳細 in くまもと



場面の变化 舞台のよう

美しさも温もりも
やまなみ
ハイウェイ

私にとって特別な道・やまなみハイウェイが開通したのは昭和39年10月、東京五輪が開かれ、新幹線が走り始めた時期と重なる。

子どものころ、家族でドライブ&ピクニックに行った。数度しか行けなかったのかもしれないが、「やまなみ」の場面は鮮明。次々に違う表情を見せる。高原の雄大さ、美しさーそう、子どもの目にも舞台を見るようだった。

幕間、草原にゴザを敷き、家族みんなで囲んで食べたお弁当、そのおいしさ。帰り道、また違う表情をみせる。遠くの由布岳が少し近づくと、麓にはわが家。そんな安心感だった。「やまなみ」の風景は、私の心に美しさと温もりを残している。

「やまなみ」がもう一度「特別な道」になったのは運転を始めてからのこと。友だちがわが家を訪ねてくると決まって「やまなみ」ドライブに出かけた。季節ごとに風景がダイナミックに変化する。全国の名ドライブコースに比べて比類ない。ススキで銀色に輝く「やまなみ」が



やまなみハイウェイ

正式名称は九州横断別府阿蘇道路。大分県湯布院町水分峠から熊本県一の宮町まで約50km。阿蘇くじゅう国立公園を走る高原道路。



桑野 和泉

プロフィール

1964年湯布院町に生まれ。1987年清泉女子大学文学部卒業。玉の湯代表取締役社長。由布院温泉観光協会専務理事。ゆふいんfamily主宰。大分経済同友会常任幹事。おおいの道構想21懇談会、観光立国推進戦略会議（内閣府）、中央環境審議会自然環境部会温泉小委員会（環境省）などの各委員。

私は好きーそんなガイドを友にしながら。

このルートの美しさを川端康成は小説「千羽鶴」でこう記している。

「ほんとうに美しい夢の国がここに浮かんだような高原でした」

「この飯田高原は多くの人も言うように、ほんとうにロマンチックななつかしさです。やわらかくて、明るくて、そしてはるばるといふ思いをさせながら、静かに内へ抱きつづまれたという思いをさせます」

与謝野鉄幹・晶子も歌を詠んだ。

「大いなる師にちかづくこと似たるかな

久住の山にひかるる心」（鉄幹）

「久住山阿蘇のさかひをする谷の

外は襲さえ無き裾野かな」（晶子）

何かあればすぐ車を向けた「やまなみ」、人を案内し、自慢した。が、最近はこの無沙汰さみ。思い出を記すと「時間を作って出かけよう」と思いが募る。

私たちの 道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく暮らして楽しい地域づくりのために九州各地の道守会員が取り組んでいるスタイルもアイデアもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告 宮崎編

NPO、市民団体など21団体が活動

「道守みやざき会議」は、宮崎地域世話人の長友隆郎氏（宮崎交通（株））、日高晃氏（橋通りフラワーロード推進協議会）、矢野初美氏（北川町の道づくりを考える女性の会）が県内で活動するボランティアに呼びかけ、6月に設立。街路の清掃、植栽のデザインや世話、交通情報案内などの活動に取り組む21のボランティア団体が参加し、情報発信や情報交流を行っている。

最盛期の日南海岸に近づけようと、沿道に苗木を植樹

日南海岸の国定公園指定50周年を迎えるにあたり、9月11日、道守みやざき会議と宮交OBボランティアの呼びかけで、いるか岬農園付近国道220号沿道の花壇に植樹作業を行った。呼びかけに集まった市民、行政職員、観光協会職員、宮交ボランティアら95人が参加。花や緑でいっぱいだった昭和40年代の日南海岸の復活を願い、この日はコバノセンナの苗の約3000本を植樹した。

四季の花が風にそよぐ道の創出

「みやざきフラワーロードネットワーク」設立



9月に設立された「みやざきフラワーロードネットワーク」は、宮崎の中心市街地で、花のまちづくり活動を行っている。もともとボランティア活動の盛んな宮崎市。花と緑の育成・植栽・二次利用までを見据えた構想で、市民が主体的にボランティアとして参画。行政や企業と共に協働して

市民事業の理念で循環型のまちづくりを目指す。初めての試みとして、10月24日に市民ボランティアや商店街の人々、行政職員、大學生や子ども達など約300人が一体となり、植栽イベントを実施。宮崎のメインストリートである橋通りを中心に、スタンディングバスケット162基を設置し、「花と緑あふれる道づくり」に汗を流した。



鶴戸山つるどやまをかつとしやる協議会（宮崎）

「道の観光」先進地 日南海岸220号を自ら守る



宮崎の日南海岸はロードパークです。「道を観光に」というシーニックバイウェイ先進地、走って楽しみ、止まって楽しむ道です。ロードパークの名所・鶴戸で「地域は自分たちが守る」を合言葉に昨年5月生まれたのが「鶴戸山をかつとしやる協議会」です。会員は30人。地域の伝統や文化の継承・保存を、地域環境の保全をいと。国土交通省の協力で新鶴戸トンネル入口付近に山桜を25本植え管理しています。桜を植え続けましょう。十数年後にはすばらしい桜並木が見られるでしょう。それが楽しみです。

プランターに花苗を植え、国道220号や市道沿いに設置しており、観光バスやドライブのみなさんに景観プラスアルファを楽しんでもらっています。ボランティア・サポートとして道路管理にも参加したり、この先もロードパークの美しさを守り続けたいと思います。（長友 浩）



古里を大切に、道も堀割も町も 生徒を育てる美化活動



伝習館高校の前身は柳川藩第十代藩主・立花鑑賢公の藩学、1824年に創立されました。文武両道の伝統校は学業と部活動中心になりがちですが、数年前から水郷・柳川の環境美化、堀割の水質改善や遊歩道整備に市

や地域のみならずと一緒に取り組んでいます。

生徒たちは総合学習で環境をテーマにし発表会や実践活動。生徒会を中心に学校周辺の清掃ボランティアが始まり、今年からは各学期に1回、全校生徒が清掃活動に参加することになりました。「道守九州会議」の誘いで学校そばの「水辺の散歩道」の清掃にも参加しました。

なげなく通学する道が観

光ルート。「まずゴミを出さ

ない」意識が芽生えています。

積極的にゴミを拾えるよう

に、卒業後、多くが古里を離

れますが清掃体験を通して北

原白秋が愛した水郷・柳川が

原風景として残るように、と願っています。

(富重 真晴)

8月4日は「橋の日」清掃 唐津城を望み10年続く



唐津城は周囲に三本の橋を巡らせています。私

たちは橋の歩道の石張り

やタイル張り工事をさせて

いただきました。唐津

を代表する橋づくりに参

加できたことを感謝し

「何か恩返しを」と思い

立ったのが橋の掃除です。10年前のことです。

8月4日を「橋の日」と銘打って始めました。

回を重ねるうちに最初の照れくささも消え、今では夏になると友人や同業者から「橋の日が近づいたね」と声をかけられます。

参加者は従業員約20人と家族やOBなどあわせて30人ほど。多少大掛かりになりますが道路工事用の散水車や高圧洗浄機も使います。歩道の石張りや車道緑石の水洗い、掃き掃除、排水管の掃除などをします。

終わると誰もが満足感に

浸ります。年に一度ですが

この先も続けます。よその

街でも橋でも8月4日の

「橋の日」掃除が広がれば、

と楽しみです。(橋本 道徳)



黄色いガザニアと白い橋 「汗と団欒」も自慢です



大島町のシンボル大島大橋

が完成し、環境美化を考える

会が誕生したのは平成11年で

す。橋に続く道に花を植え、

除草作業、空き缶回収などに

取り組んでいます。春先には

5kmの道路沿いがガザニアの

花で黄色い絨毯のようです。

白く輝く大橋は1095mの斜張橋。長崎県最

長で、周囲は海や山に囲まれ、自然がもつとも美

しい。本島への陸の玄関。ドライブや釣りなどの

来客のみならずも道路沿線の美しさに心とむよう

で感謝されます。

昨年9月、長崎県の道路里親団体に登録し活動

の幅を広げています。最近「私も力になりたい」と賛同者が増え、現在は53人。月1回の除草作業と花手入れ、4〜5回の清掃が主な活動です。

協力し一緒に汗をかき、作

業後は団欒。楽しみの一つで

す。道路美化で景観向上やイ

メージアップ、人と人とのつ

ながり美しい街、住みよい

街、元気の街につながると思

います。(田口 昭子)



毎月、店の周辺一帯で清掃 10月11日は九州・山口いつせいに

イオン九州株式会社は、10月11日のイオン・デーに従業員がボランティア活動に参加しました。九州・山口地区約60カ所の道路や海岸・河川敷など広い場所を店舗合同で実施しました。大分県では大分市乗越交



差点から高城駅周辺までの国道197号線沿い周辺を大分地区5店舗の従業員210名が1時間かけて清掃し、収集したゴミは集合場所の高城店で分別をしました。参加者は、自分たちが日ごろ使う道・お客様がご利用される道を清掃したことにより身近に感じ環境を再認識していました。

毎月11日は、エコロジー(環境)とローカル(地域選)をテーマに地域への貢献活動について振り返る日とし各店舗周辺の清掃活動やキャンペーンを実施しています。

現在、道守大分会議に世話人として参加しています。企業も地域の一員として活動していきたいと思



います。(森山 節夫)

商店街が道の里親に 宇城地域の運動に参加

宇土市本町1丁目は市の中心部、商店街です。35軒ほどの商店が並んでいます。道路は交通量も多く、空き缶やタバコの吸い殻のポイ捨てが目立ちます。本町1丁目区は本町



1丁目全戸が参加する自治組織です。宇土市・郡と下益城郡の宇城地域「心ふれあう住み良いまちづくり運動」に参加し、「道の里親」となって道路美化や沿道花壇に取り組みようになりました。

宇城地域のまちづくり運動は▽あいさつ運動▽美化活動▽道の里親運動が3つの柱です。地域の住民

組織や各種団体、学校、自治体などが互いのパート

ナーシップにより、近年薄

らぎつつある地域を愛する

気持ちや連帯感をはぐく

み、安心して暮らせる地域

を目指すものです。

本町1丁目区は道の里親

運動を通して、私たちの住

む地域を住み良いまちにし

ていきたいと思



います。(小郷 幸治)

ひまわり大好き! 明るい町づくり

鹿児島市永吉の町は鹿児島中央駅から北に約3km、甲突川右岸の町です。11年前の8・6水害で川に面する住居地帯が被害に遭いました。新しい町づくりが進み、道路や公園など社会基盤も設備され、災害にも強い町に生まれ変わりました。町の中央を20m道路が



南北に縦走し、路側帯や歩道に植樹がされおり、町内会は毎月第1日曜日午前7時から8時まで一帯で

空き缶を拾い、草を取り、ゴミを拾います。

清掃団体は町内会のほか町の長寿会と青壮年部で

す。長寿会は毎月1回、30人ほど参加して道路の清

掃や花の世話をしています。夏のひまわりが名物に

なっていて、明るい町のシンボルになっています。

青壮年部も同じく月1回で、参加者は20人くらい。

老若男女の2団体の活

動は大きな力となって

道路の清掃や町の環境

美化に貢献しています。

住民一丸となり自分た

ちの町を守っています。



います。(脇 昭夫)



600本の松が茂る曲里の松並木

黒崎宿。都市化が進み宿場町の面影を探すのは難しい。「曲里の松並木」―高度成長期に姿を消し、復元された若い松並木あたりから歩き出す。マップ片手に。かつて番所が置かれた東西の構口(入り口)は石碑だけが残る。宿入り前に旅人が居ずまいを整えた「乱橋」は橋も碑文もあまりに小さく見落とす。参勤交代の大名が宿した本陣・榎屋跡は現在マンション。建物は平成2年に解体され、保存されているが復元の計画はまだない。JR鹿児島本線を挟んで北側に城山、黒崎城跡だ。一帯はかつて降下煤塵日本一、

道と宿、そんな黒崎の原点に戻



お茶を振る舞う藤田銀天街の皆さん

が行われている。キリスト・マリア像の小さな古いメダルが見つかった。大名と隠れキリシタンがすぐ側に―そんな想像が楽しい。黒崎宿と長崎街道の歴史の多彩さを実感する。百万人工業都市の副都心まで上り詰めた黒崎だが、いまはパートの撤退や商店街の不振に苦しむ。街道筋の藤田銀天街は大きな黒崎宿絵図を掲げ、「レール&ウォーク」参加者に茶菓を振舞った。空き店舗に黒崎宿資料室も作った。

屏風や書などを披露。古くは商家資料、家具や什器、商家資料、開放し、家に残る古い



子供大名行列

九州市無形文化財)、黒田二十四騎武者行列などが繰り広げられた。男女の踊り手は三度笠に腰提灯や手巾、脚絆に妻折笠、仕草に歌舞伎など上方文化が混じり街道筋ならではの伝統を伝える。古い民家は庭先や上がりがまを来訪者に開放し、家に残る古い屏風や書などを披露。

長崎街道(小倉―長崎間、約240km)は、鎖国の江戸時代に海外へ開かれた港。内黒崎、木屋瀬、飯塚、内野、山家、原田は筑前六宿と呼ばれた。参勤交代の大名、シーボルトら外国人、商人、文人墨客、西郷隆盛や坂本龍馬ら維新の志士らが足跡を残す。歴史を検証・再評価する試みが各地で行われ、象を歩かせたり、西洋菓子伝来の文化を「シュガーロード」と名付けた。長崎街道ならではの多彩さだ。

黒崎・木屋瀬のまちづくり

福岡(北九州)

長崎街道筑前六宿のうちの二宿を結ぶ「黒崎・木屋瀬レール&ウォーク」が11月3日にあった。北九州市の副都心・旧黒崎宿跡と西南端の旧木屋瀬宿跡を歩く。かつて1日の旅程だった二宿間の移動は筑豊電鉄で(約12・6km、運賃350円は無料)という初めての試みに300人を超える人々が参加した。

町並み資料館の展示風景

「名護屋城」跡は石組み博物館 技術と美意識と…見学者が急増中



「大岡が眺みし海の隈かな」の句碑。関西俳壇の重鎮であった青木月斗の句で、昭和15年に月斗派の同人らにより建立された



名護屋城跡には見学者が急増している



天守台の石垣。すべて矢を入れて割った石のみで積まれており、城内でも天守台のほか限られた場所で見られる



本丸東面の石垣。天守台と異なり、割った石と自然石の両方を用いた野面積みで、城内で多くみられる積み方である



名護屋城博物館 高瀬西郎学芸課長

「荒城」のイメージ。名護屋城(佐賀県・鎮西町)は黒澤明の映画「乱」の舞台に使われた。裏切り、無残な敗北、精神を乱した武将が墨絵のような石垣だけが残る城址をさまよう。今も、幾つかのシーンが鮮明に思い出される。名護屋城跡は、勿論、秀吉の朝鮮出兵の軍事拠点として築城され、近世初頭の特徴をよく残すものとして知られている。規模も当時としては大阪城に比肩する。最盛期には人口10万人が城下に集まった。佐賀県立名護屋城博物館はこの城の発掘整備、秀吉の号令で集められた諸侯の陣屋跡発掘などで興味深い調査結果を次々と発表している。来館者も年々、増えている。訪れる人の中に、最近、建築・土木関係者や技術者が目立つという。関心は城壁などの石組みだ。名護屋城築城にあたって、西国大名が動員された。天正19年秋からわずか5ヶ月で完成、その急ぎ働きのため石工がかき集められ、一斉作業を命じられた。そのため、築城期間が特定され、かつ石組み博物館と呼ばれるほど、多様な技術のその粋が駆使されている城となった。420年近くたって、平成の技術者が訪れるのは、野づら積み、割り石積み、落とし積みなど、石工の技術が今日、ほとんど伝えられず、この城壁が実物教材になること。何より環境、景観、自然を意識した工事を求められるようになったからだ。コンクリートで固めた護岸工事が批判される一事を見ても、石工たちの蘇りが納得できようというものだ。「天正の石工たちの卓抜した意匠、デザイン力も学んで欲しい」と同博物館学芸課長の高瀬哲郎さんは言う。例えば、天守台の石垣。自由でいて、意図された石たちの組み合わせ、そのデザイン性には、うならせられる。そんな美意識は城址のいたるところのぞく。一つの巨石を割り、その断面を左右対称に置いたり、中心石の周辺を花びらのようにデザインして、石を組み合わせる、などなど見る者をあきさせない。「安土桃山の美意識がちりばめられた軍事拠点。そんな芸当が出来るのは、ただ一人。築城の名手、加藤清正だけです」。微笑する高瀬さんの顔は、確信に満ちていた。(久保平)

ご存知
ですか？

九州の道路に関するアンケート調査より 道路に関するボランティア活動

4割弱がボランティア参加の意向 道守活動に結びつけ参加の機会を

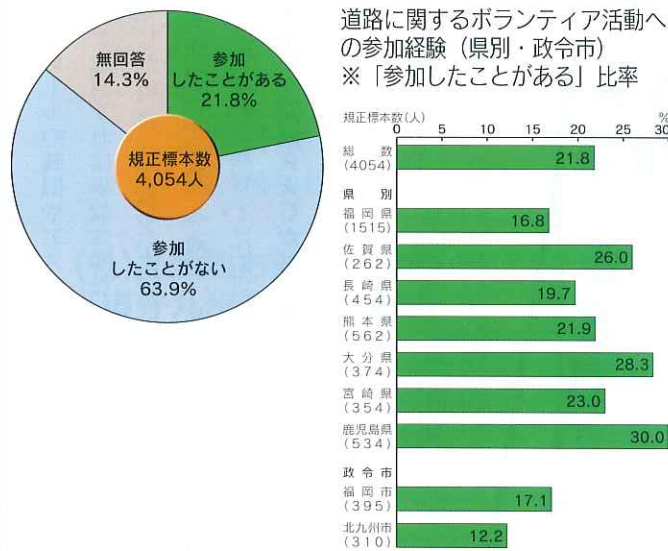
九州地方整備局は、九州に居住する16歳以上の道路利用者1万人（うち有効回収数4,054人）を対象に「九州の道路に関するアンケート調査」を今年の夏に行いました。九州の道路に関して、広く道路利用者の意識を調査することで、今後の道路行政のあり方や道路事業の方針等についての参考としています。

道路に関するボランティア活動に関連するアンケート結果では、ボランティア経験者が全体の約2割、ボランティアに参加しても良いと考えている人は全体の約4割、参加意向についてわからないと答えた人が全体の4割もいました。その他に「道守九州会議」の認知度も調査しており、道守九州会議を「知っている」が0.5%、「詳しくは知らないが聞いたことはある」が3.3%で、合計の認知率は3.8%でした。

自由意見にはボランティアや道守の情報を求める声も多く出ており、活動内容を知ってもらおう工夫も必要のようです。

道路に関するボランティア活動への参加経験

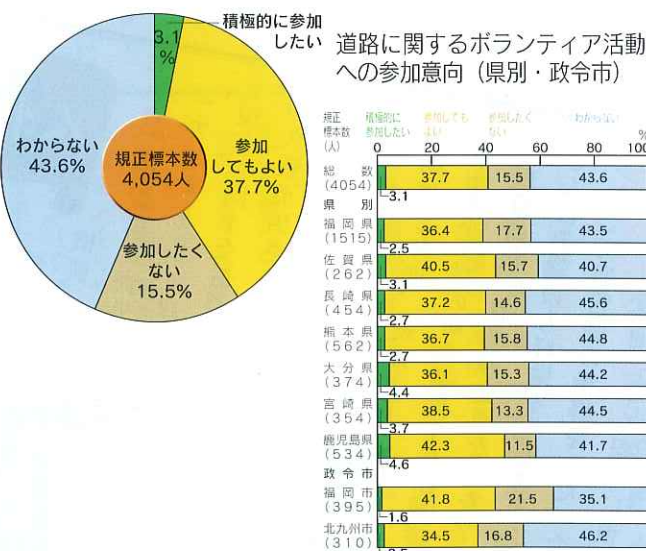
あなたは、道路に関するボランティア活動（草木の管理、道路の清掃、道路を生かした街づくりの活動など）に参加したことがありますか。



道路に関するボランティア活動に「参加したことがある」人は21.8%。その中で参加経験者の比率は鹿児島県、大分県、佐賀県で高く、福岡県で最も低い。北九州市では参加経験者は12.2%と福岡県平均よりさらに低い。

道路に関するボランティア活動への参加意向

あなたは、このような活動に参加してみたいと思われませんか。



道路に関するボランティア活動への参加意向は、「積極的に参加したい」が3.1%、「参加してもよい」が37.7%で、合計すると4割強の人が参加に前向きな姿勢を示している。「参加したくない」は15.5%にとどまり、「わからない」とする人が43.6%となっている。県別では、鹿児島県の参加意向が他県よりやや多い。

● 道路についてのご意見・ご提案・ご相談を受け付けています ●

九州地方整備局「道の相談室」 [24時間毎日受付]
ドロー ヨクナレ 0120-106-497 FAX 092-476-3514

● E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp ● H.P. http://www.qsr.mlit.go.jp



数字以上に遅れている日本の高速道路整備水準 イギリス

イギリスの場合、日本の高速道路に相当するアクセスコントロールされた自動車専用道路としては、いわゆるモーターウェイ（M路線）があり、それだけを比較すれば日本とほぼ同等である。しかしイギリスの一般国道であるA路線のうち、上下線分離の道路は、実質的にM路線と同程度の規格であり、制限速度もM路線と同じ70マイル/h（約112km/h）である。これらの路線は、M路線と補完しあって高速道路ネットワークを形成しており、これを加えた場合、イギリスの整備水準は、日本をはるかに凌いでいる。

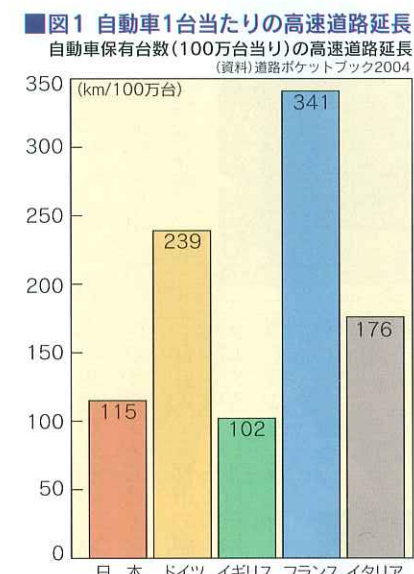
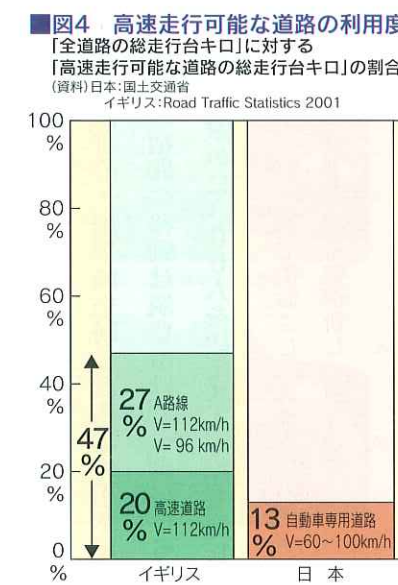
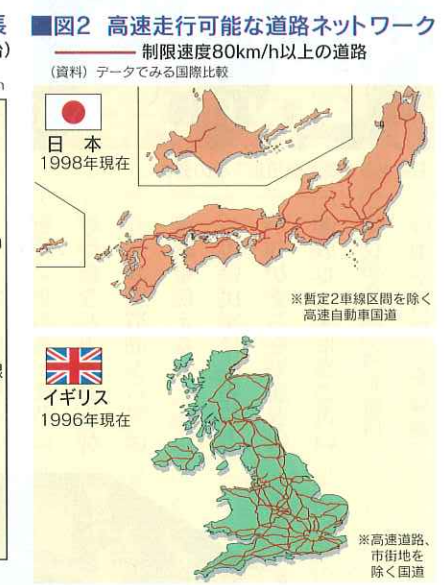
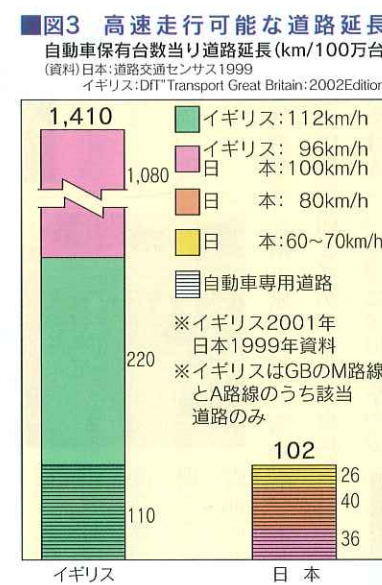


図1に示すとおり、日本の高速道路供用延長は、自動車一台当りの水準でフランスの三分の一、ドイツやイタリアのおよそ二分の一、イギリスと同程度である。イギリスと同程度？実際に1年間滞在し、車で3万キロ近く走行してみて、この数字に違和感を覚えた。

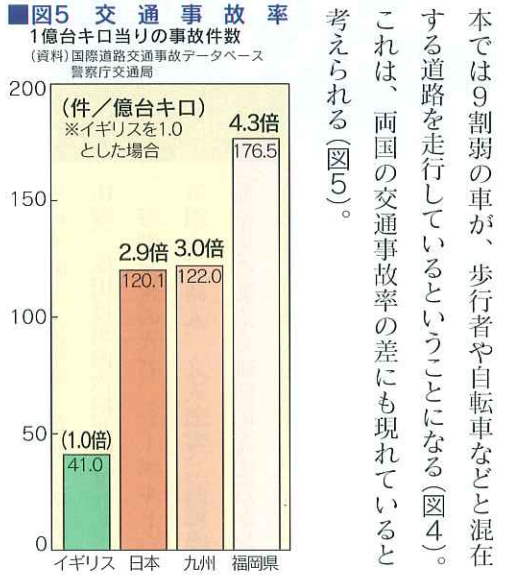


また、このような高速走行可能な道路の利用度を比較すると、日英で3倍以上の開きがあり、日本は、実際に車で走行してみて感じた実感に近いものである。



増田 博行氏
プロフィール
国土交通省福岡国道事務所 事務所長。2001年10月から2002年9月英国道路庁へ派遣。2003年4月より現職。

これは、実際に車で走行してみて感じた実感に近いものである。また、このような高速走行可能な道路の利用度を比較すると、日英で3倍以上の開きがあり、日本は、実際に車で走行してみて感じた実感に近いものである。



大分県玖珠郡内で信号機清掃 「玖珠地区安全運転管理協議会」（132事業所）に加盟する若手ドライバー約60人が、郡内の信号機を清掃した。国道210号や387号など主要道路で行われ、参加者は高所作業車に乗り、信号機のレンズをタオルでふいた。「排ガスで結構汚れていますね」と驚いた様子。

「福岡なるほど」作成 福岡国道事務所と福岡市内の7小学校の教諭で、道路に関する社会科副読本「福岡なるほど」を作成、市内の全小学校へ配布した。「身近な道路をもっと知って、愛着を持ってくれば」と、道路のプロと、教育のプロが協力。「初めての経験だったが、実用的な教材に仕上がった」と飯倉小学校の笠原校長。

断熱塗料で道路の温度上昇抑制 ビルの外装などに使われる断熱塗料で、路面温度が最大15度程度低く抑えられることが、熊本大学の北園芳人教授（地盤環境工学）の実験で分かった。「暑い道路を歩かなくて済む。放熱が抑えられヒートアイランド現象の抑止につながる」と北園教授。透水機能の実験を行い、遊歩道などへの実用化を目指す。

北九州市のタクシー会社が校区巡回 北九州市のタクシー会社が今月から、防犯のために市内の小学校区巡回を始めた。「地域に役立ちたい。校区の道路で商いを

している身ですから」と同社担当者。**社員の発案で「ついでにも110番」** 中村造園（佐世保市田代町）は、「子ども110番」のステッカーを作業用トラックに張り、「ついでにも110番の車」として街角で子どもたちを見守っている。走行中や作業中に犯罪や事故を認知した場合に、警察への通報を行う。現在は、同社が加盟する佐世保市の造園建設業協同組合も取り組んでいる。

粕屋東中3年生が校区清掃 福岡県粕屋町の粕屋東中3年生147人が、校区全域でボランティア清掃を行った。総合学習の時間を活用し、環境美化活動を通して、地域の課題などを考えようとの試み。地域の公民館や公園、神社境内など多くの住民が利用する施設や高速道路下、バス停を手分けして清掃した。

筑後川花火大会で1700人清掃 筑後川花火大会の翌日、会場となった筑後川河川敷周辺で、市民約1700人によるボランティア清掃が行われた。午前6時から約2時間、豆津橋から二千年橋にかけての河川敷や周辺道路で、空き缶やベトポトル、残飯などを拾った。集まったごみは昨年より約25%増の約3.5トンとなった。

タクシー協会が道路の異常情報提供 佐世保市タクシー協会が、国道や県道などの道路異常情報を提供するボランティア

道の声 人の声

台風の傷深く 秋の山寂しげ

今年ほど里山が元気がない姿を見せるのも珍しい。相次ぐ台風が紅葉する木々の葉、そしてカキやギンナンの実を吹き飛ばし落としてしまったからだ。里山の木の実を餌にする動物たちだけでなく私の楽しみまで奪ってしまった。

例年なら里山を歩くとじゅうたんを敷きつめたような鮮やかなコントラストの道がある。赤、黄、だいたい色などの落ち葉は踏むのをちゅうちよしそうになるくらい美しい。さくさくと心地よい感触が足元から伝わってきて心を癒やしてくれる。だが、今年は紅葉しないまま落とされた葉が枯れ葉となってわずかに山道の上にはばらばらと散らばっている。

秋が深まり寒暖の差が大きくなった。台風を何とかしのいで残ったイロハモミジが紅葉を始めた。しかし、燃えるようなつややかさはない。紅葉をお目当てに里山を訪れるハイカーたちから、今年はどこもダメだなとため息がもれる。今年の里山の秋は寂しい。

（福岡県水巻町・坂田春海智）

ポイ捨てなき街の実現願う

この前の学校の帰り道、道路やまわりの田んぼにいつぱいごみが落ちていたことがわかりました。最近、大きな台風がきたのでそのせいもあるかもしれませんが、私はどうしても台風の

「道の声・人の声」は読者のみなさんの投稿欄です。ご自由に意見や随想、「道守通信」の感想などを郵便または「道守」ホームページの投稿メールでお寄せください。字数は200〜300字程度、写真も受け付けます。採用分には記念品を差し上げます。

せいではなく、ポイ捨てなどをして田んぼに落ちたりしたのだと思います。

その前の日曜日に母と一緒に買い物をして行きました。歩いていてと道路にかんだあとのガムが落ちていて、私はそれをふんでしまい、とてもよくよく思いました。捨てた人は何も考えずにポイポイ捨てていくけど、そのために嫌な思いをしている人たちがいることを考えてほしいと思います。

よくたばこの吸いがらとか、火がついたままをポイ捨てしている人を見かけるけど「火事になったらどうするんだ」と言ってるやうにたかります。このイライラをなくすために早くポイ捨てのない町にしたいです。

（福岡県夜須町・吉村仁美）

シーニックバイウェイは 時代の風潮にある

走る道から、止まる道、たたく道、眺める道、振り返る道。道にはさまざまな表情や機能がある、と感じた。シーニックバイウェイには時代の大きな風潮がある。北海道の取り組みはずばらしい。九州に活用できそう。

（福岡県春日市・松本準一／「観光と道路」シンポジウムに参加して）

郵便の送り先は

〒8120011 福岡博多区博多駅前1-19-3
（社）九州地方計画協会内「道守九州会議」事務局
ホームページは <http://www.michimori.com/>

団体「ロードレポーター」となった。ガドレールの破損やアスファルトの凸凹など放置すれば事故につながる状況を発見した場合、運転手が無線室を通じて「九州道の相談室」へ連絡。相談室から各道路管理者へ通報する仕組み。

大川、久留米RACが共同清掃 大川ローターアクトルクラブと久留米ローターアクトルクラブが共同で、西鉄柳川駅から柳川市御花まで、約2kmの歩道とその周辺を清掃して回った。呼びかけを受けて大

「2度目の海外道守へ」



国際協力機構（JICA）のシニア海外ボランティアとして建設省（現在の国土交通省）OBの久賀英男さん（67）

福岡市東区唐原が11月、福岡市東区唐原へ出発した。任期は2年間、現地の大任期は2年間、道路補修作業などの指導にあたる。現役時代、道路や交通などを学ぶ海外研修生を指導した久賀さんは退職後も経験を生かそうと2000年から2年間、ヨルダンで交通管制の指導をした。今回は2回目の海外道守ボランティア。出発前「早く現地に慣れ、自分の技術を生かしたい」と語った。

「道守九州会議」からのお知らせ

フォトスポット&パーキング PS&P情報を募集中

道守九州会議では、国土交通省九州地方整備局と連携し、フォトスポット&パーキング（PS&P）情報を募集中です。併せて、フォトコンテストも行っています。詳しくは道守HP内のPS&Pコーナーをご参照ください。

<http://www.michimori.com/psp/index.html>

道守ホームページの活用

道守活動や関連イベントなどの情報をメールやCD、FDなどデジタルデータでお寄せいただければ道守ホームページや機関誌「道守通信」で簡単に紹介できます。応募・投稿フォーム（書式）は道守HPにあります。ご利用ください。

道守賛助会員を募集しています

道守九州会議には活動を支える賛助会員制度があります。賛助会費は個人年3千円、企業など団体は年1万円です。受付は道守HPのほか道守九州会議事務局（担当：森、廣瀬）でも行っています。ご協力をお願い申し上げます。

九州幹線道路協議会に道守分科会が誕生

国、県などの道路行政担当機関が道路施策などを協議する九州幹線道路協議会（会長 国土交通省九州地方整備局長）に「道守分科会」が設置されました。行政サイドとして民間の道守活動とどう連携していくかなどを検討・協議する目的です。

入会申し込み 問い合わせ

（社）九州地方計画協会内 「道守九州会議」事務局

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533
(ホームページも参照ください。申し込みも可能です)

■道守HP <http://www.michimori.com>
■e-mail michimori@michimori.com

「道守通信」 編集後記

道は出会いの場。道守の動きで日々実感しています。マイツリー計画で植えた一本の木でまた違う道への思いが。先日冬晴れの朝にみんなでゴミ拾いに。3か月ぶりの木の成長に喜んだり心配したりと。別大国道がすぐく身近になりました。道守活動は私に力をくれます。この通信が皆さんの出会いの場になることと思っています。

（編集委員・桑野和泉＝玉の湯代表取締役社長）



三叉路の楠の大木見上ぐれば
かつてこの下に住みし人思ふ

加藤 文字



広報誌「道守通信」冬号
平成16年12月21日発行

■発行 「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号

TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

●「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

●e-mailアドレス michimori@michimori.com

定価 300円 (消費税を含む)